Greens Column

Book

ぼくが歌う場所　フォークソングを追い求めて 50 年

歌い続けるための歌う場所から生まれた歴史観とは?!

「受験生ブルース」から 54 年……。本書は中川 五郎さんが綴る日本フォークの記録である。しかし、僕にとっては「記憶」に残る 1 冊となった。歌にせよ、著作にせよ、五郎さんの作品は「読み解く」という行為を与えてくれる。例えば、本書 Part8「新たなるプロテスト・ソングへの険しい道」に記された「一台のリヤカーが立ち向かう」と「1923 年福田村の虐殺」という歌に関するエピソード。前者はリヤカーにアンプを積んで抗いの歌を歌い続けるも、若くして亡くなったフォークソング仲間かつ反戦運動同志の村松 俊英さんから始まり、たった1人で抗いをしてきた世界中の人たちへのリスペクトとシンパシーを歌った曲。後者は香川県からやってきた行商人を、千葉の人々がアクセントの違いから外国人と勘違いして妊婦を含めた 9 人を惨殺したという、関東大震災直後に起きた事件とそのいきさつを描いた歌である。いずれも 2017 年に発表した 2 枚組アルバム「どうぞ裸になってください」に収録されており、YouTube でも聴くことができる。

この 2 曲は、僕にとって人生の宿題となっている。「一台のリヤカー」では登場する抗う人たちを調べ直す機会を与え、組織や集団に馴染めない僕を勇気付ける。「福田村」は近年、五郎さんが精力的に取り組んでいるバラッド（物語歌）形式のトーキングブルースで「関東大震災朝鮮人差別 3 部作」のうちの 1 作。現状の理不尽・不条理にばかり目を向けていた僕に、「近代史」というテーマを与えてくれた。

しかし、本書でのエピソードを読んで、そこで留めていた自分を恥じた。五郎さんが自分の思いや考え以上に「事実を直視すること」に注力してきたことを知ったからだ。事実は時に捻じ曲げられる。だから、直視するためには、読書や映画鑑賞だけでは賄いきれない。とはいえ、過去の事実は体現できない。しかし、過去の事実を学ぶことから現在の事実を体現・考察し、未来に素敵な事実を創り出すことはできる。そのために、1 人ひとりがどうすべきか?!　フォークソングの歴史や五郎さんが「歌う場所」での人との交流などを交えながら、本書はそんな命題へのヒントを随所に感じることができるはずだ。

奥平 等　㈱メディア・パラダイム研究所主宰　IT を中心に、記者・コピーライター・マーケティングプランナーとして、時代の変遷をウォッチング。唯一の生きる指針として「1 人ひとりが違う。だから、お互いに受容・涵養することが大切」を掲げている。

ぼくが歌う場所　フォークソングを追い求めて 50 年
平凡社刊　2,800 円+税
書店・EC サイトでの流通の他、
中川五郎さんのライブで販売しています。

Cinema

サマー・オブ・ソウル　あるいは、革命がテレビ放映されなかった時

50 年もの歳月を経て、初公開される意義と意味とは?!

これは 1969 年夏、6 回に渡って NY ハーレムのマウント・モリス公園（現在のマーカス・ガーヴェイ公園）で開催された「ハーレム・カルチュラル・フェスティヴァル=前年に暗殺されたキング牧師の一周忌記念」のドキュメント映画だ。30 万人以上を集めたといわれるこのフェスのライブ映像が、当時の観客、アーティストの証言、そして同年の「アポロ月面着陸」のニュース映像などを交えて構成されている。

この「ウッドストックフェスティバル」と同時期に開催されたフェスはフィルムに収められたにもかかわらず一度も公開されたことがなかった。それが 50 年もの歳月を経て、ようやく公開される理由は、現在の「ブラック・ライブズ・マター運動」への共感であろうし、何よりもこの映像をまとめなければと思う監督の熱意であろう。それは彼がその名もバンド「ザ・ルーツ」のドラマーであることが大きく関与していると思われる。1963 年にジョン・F・ケネディ大統領が、65 年にマルコム X が、そして 68 年にはマーティン・ルーサー・キング牧師とロバート・ケネディ上院議員が暗殺（64 年にはサム・クックが射殺）されるという戦後アメリカ史上最悪な状態で迎えた 69 年に「ラブ&ピース」を謳った「ウッドストックフェス」が開かれ、かたやハーレムで当時のニューヨーク市長の思惑もあっただろうが同フェスも暴動に至ることなく開催された。

どちらも素晴らしいイベントであり映像であるが、その置かれた状況の違いは記憶しておきたい。この映画の素晴らしさは観ていただければ一目瞭然だが、特にニーナ・シモンに注目して欲しい。後にアリッサ・フランクリンもダニー・ハサウェイもカバーする『ヤング・ギフティッド・アンド・ブラック』をピアノで弾き語りした後、「自分を変える準備はできているか!?」と詩人デビッド・ネルソンの詩をリズミカルに、そして高らかに読み上げ、問いかける……。この映画の核心はこのシーンに凝縮されているのではないだろうか。

佐藤 ユキオ　曙橋「Bar 461」店主。20 歳から飲み屋稼業に従事し、37 歳で同店を開業。オヤジ Band 大会で優勝経験を持つ、ドラマーでもある。店では小規模ながら温かい Live を実施。数多くのアーティスト、ミュージシャンと交流を持つ。

SUMMER OF SOUL 1969

サマー・オブ・ソウル
あるいは、革命がテレビ放映されなかった時
原題：Summer of Soul (...Or, When the Revolution Could Not Be Televised)
監督：アミール・“ クエストラブ ”・トンプソン
出演アーティスト：スティーヴィー・ワンダー、ニーナ・シモン、スライ & ザ・ファミリー・ストーン、グラディス・ナイト&ザ・ピップス、B.B. キング、ザ・フィフス・ディメンション、マヘリア・ジャクソン　他
2021年製作 /118分 / アメリカ 配給：ディズニー
※画像はイメージです

Music

RIKUO & PIANO 2

京都府出身のシンガーソングライター&キーボーディスト、リクオ……。僕が彼の歌に初めて接したのは、同じく京都出身のフォークシンガー・豊田勇三のライブでのオープニングアクトだったと記憶している。多分、梅津和時プロデュースによるミニ・アルバム『本当のこと』でレコード・デビューした 1990 年頃だったのではないだろうか？ ピアノも置かれていない小さなライブハウスで、彼はアコーディオンを引っ提げて颯爽と登場。まさに人と楽器が一体になったアクロバットのような演奏を聴かせてくれた。

その後、精力的なライブ活動のもと、ソウルフルなヴォーカルとニューオリンズ、R&R、ブルースなどに影響を受けたグルーヴ感に満ちたピアノスタイルを確立。ローリングピアノマンと称されるように世代・ジャンルを越えて熱狂的な支持を集める彼が、この 9 月に満を持して、11 年振りのピアノ弾き語りアルバムとしてリリースしたのが本作である。「2」というからには前作があり、同名の弾き語りアルバムが 2010 年 1 月にリリースされている。前作が忌野清志郎との共作「胸が痛いよ」を除いて、12 曲中 11 曲を他の日本人アーティストの作品から厳選したカバーアルバムだったのに対して、本作は忌野清志郎の訳詞による「イマジン」、「満月の夕」などの名曲カヴァー 4 曲を含む、リクオ・テイスト満載の 11 曲で構成されている。また、コロナ禍に伴うアーティストのローカル発信の重要性を踏まえて、自身が暮らす京都にて、地元の人脈を活かしながら制作を行ってきたという。

圧巻は、1 曲目「イマジン」であろう。RC の「イマジン」には圧倒感で涙させられたが、リクオのそれは同じ歌詞でありながらも、この曲が掲げる高い理想を改めて熟考させてくれる。暗めのアレンジと幻想的ともいえるピアノ演奏はコロナ禍を象徴しているのかもしれないが、最後の「1 人だけじゃない、世界中にいるのさ」という叫びは、コロナを乗り越えようとしているいま、むしろ「理想は実現できるかも?!」という期待へとつながっていく。

また、7 曲目「ランブリングマン」は旅を続けてきた男の機微を歌った曲だが、実はパンデミック禍で思うようにツアーに出ることができなくなった彼自身を投影しているようにも感じた。多くのアーティスト、ミュージシャン、そして観衆が安心してシャウトできる日が待ち遠しい。

奥平 等　㈱メディア・パラダイム研究所主宰　IT を中心に、記者・コピーライター・マーケティングプランナーとして、時代の変遷をウォッチング。唯一の生きる指針として「1 人ひとりが違う。だから、お互いに受容・涵養することが大切」を掲げている。

RIKUO & PIANO 2 ／リクオ
レーベル：Hello Records
定価：本体 2,800 円+税
リクオ・オンラインショップ
「Hello Records shop(BASE)」
https://rikuoshop.thebase.in/

Greens People

西荻窪・イタリアンレストラン～選挙割プロジェクトにも参加

月一無料配布　地域への思いやりをお弁当に詰めて

西荻窪駅北口から5分。イタリアンレストラン「かきぞえ食堂」のオーナーシェフ・柿添嘉伸さんを訪ねました。店頭の黒板に書き込まれたメッセージにはSNSを中心に大きな反響が。10万円支給の半額をクーポンで支給することに対するtwitterには5000以上のいいねがあったそうです。コロナの協力金の還元をテーマに行われている、月一60個、無料配布のお弁当は、ご近所のモンド・ジェラートさん（西荻北3－19－10　☎080－5974－4832）と連携した取り組みを実施、お母さんや子供たちにも好評であったそうです。配布をお手伝いされるボランティアの方と共に、12月初旬と年末の配布を予定しています。また、西荻地域の新しい市民グループ「西荻クリキンデイ（仮）」（活動メンバー募集中kakizoe58@gmail.com）もスタートしています。「人と人が安心してつながりあえる地域づくり」を目指して、お弁当と一緒に生活支援品の配布や、勉強相談会も計画されているとのことです。衆院選の投票率を上げる目的で行われた「選挙割すぎなみ」にも、区内25店舗の皆さんと共に参加されました。「人前で話すのが苦手なんですよ」とおっしゃりながらも、その行動力で、地域のつながりが始まっています。おいしいお料理と、あたたかな地域貢献。ぜひ訪れてみてください。

マツカワカレイのカルパッチョ

＊写真のT シャツはチャリティーT シャツ（@1500円）私も買いました。

ワインとお野菜 かきぞえ食堂　代表 柿添 嘉伸さん
かきぞえ食堂　@kaizoesyokudou
〒167－0042 東京都杉並区西荻北3－14－5
TEL・FAX 03－6671－4370 午後18時～ 定休日・木曜

編集後記　衆院選を通じて感じたこと。それは地域からの多様、かつ大量の社会運動が必要なこと。選挙で社会は変わるが、選挙だけでは変えられないのだ。UPROOT THE SYSTEM・・地域から根こそぎ変えていこう！ミュニシパリズム (地域主義) の出番です。(R)

緑の党 グリーンズジャパン 東京
発行：緑の党グリーンズジャパン東京都本部
〒165-0026 東京都中野区新井 2-7-10 サンファスト 301
TEL：03-5364-9010 ／ FAX：03-3389-0636
https://greens-japan-tokyobranch.jimdo.com/

編集　大場 亮　編集協力　デザイン：石井 千春、撮影：山下 恒夫、取材・編集・執筆：奥平 等 、取材協力 :芹澤 悦子